

翻訳とジェンダー／文学翻訳／通訳・翻訳史

これまでの主な研究

1 翻訳とジェンダーについての研究

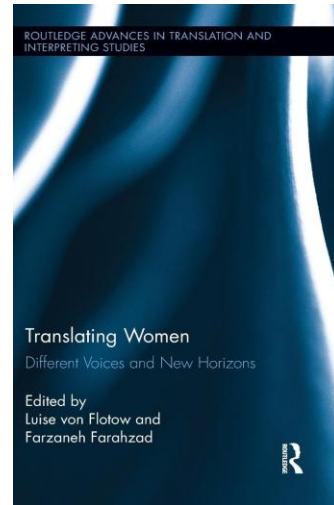
2つのテーマについて研究を行っています。

- (1) 小説の女性たちはどう翻訳されてきたか？
- (2) ジェンダー平等を実現するために、翻訳にできることはなにか？

【主な出版物】



翻訳をジェンダーする
(筑摩書房 2024)

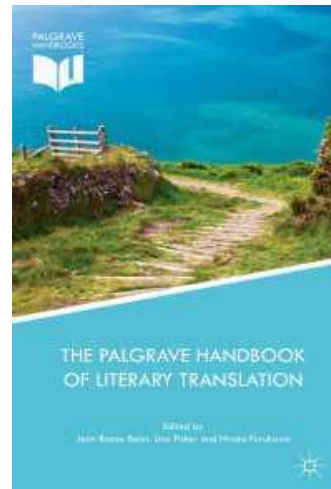


Translating Women
(Routledge 2017 共著)

2 世界の文学翻訳研究の紹介

様々な地域と言語に関わる文学翻訳について、25の事例研究を書籍にまとめました。

地域：アジア、アフリカ、欧米、中南米など
言語：イタリア語、英語、オランダ語、カタルーニャ語、中国語、ドイツ語、トルコ語、ナイジェリア英語、日本語、フランス語、ヘブライ語、ロシア語など

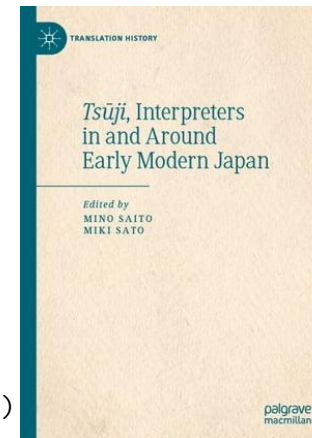


The Palgrave Handbook of Literary Translation
(Palgrave Macmillan 2018 共編著)

Tsūji, Interpreters in and Around Early Modern Japan
(Palgrave Macmillan 2023 共著)

3 江戸時代の通訳の研究

対馬の雨森芳洲と日本語-朝鮮語の通訳について研究をしました。雨森は日本初の通訳学校を作り、多文化共生を唱えました。



研究者プロフィール

国際学部
国際教養学科
教授
古川弘子



関連キーワード:

文学翻訳、通訳・翻訳史
ジェンダー、フェミニズム

専門：文学翻訳（翻訳学）

早稲田大学政治経済学部卒業後、出版社で雑誌と書籍の編集に携わったのち、英国のイースト・アングリア大学で博士課程を修了(Ph.D. in Literary Translation)。同大学でのポストドクターを経て、2012年より東北学院大学に勤務している。

研究者への連絡先

産学連携推進センター
srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
022-354-8122

東北学院大学